

北九州市 発達障害者支援地域 協議会・専門部会

調査・骨格検討部会（第五回）

2022.2.21 19:00～

本日の予定

※ 20時20分
終了

《意見交換》

実態調査の結果を受けた課題整理、
取り組みの方向

〔70分程度〕

会議終了後も、会議構成員の方々とは随時チャットで意見交換

《本日の議題》

実態調査の結果を受けた課題整理、 取り組みの方向

① 見えてきた課題への対応

- ・ 第4回会議の議論をもとに、「基本の手立て」を広げるために必要な取り組みを検討する
 - 誰が、どのような方法で行うかまで意見交換

② 更に、取り組むべき課題がないか

- ・ 実態調査の結果を再度確認し、取り組むべき課題に追加すべき事項がないか検討する

1 見えてきた課題（第4回w e b会議より）

- (1) 現場での特性評価
- (2) 本人や家族の受容
- (3) 手立ての選択、効果測定
- (4) 日常のサポート体制 《重点検討課題》
- (5) 使いやすいつールの開発や選択
- (6) 専門的手法の普及

〔課題1〕 現場での特性評価

(以下、・ = 意見 ◆ = 提案)

・ 学校で心理発達検査を実施するのは難しい状況がある。

◆ 例えば就学相談等の情報を、学習指導や日常生活の中での配慮のポイントとして、先生方が意図して支援するなど、**入手した情報を効果的に活用する。**

誰が、どのように行うか

〔課題2〕 本人や家族の受容

- ・ 自分自身のことを受け止める過程や、家族として（本人のことを）受け止める過程への心理面への支援なくして、特性に応じた手立てを講じることはできないと思う。

- ◆ 日々の営みを伴走していくシステムの必要性を強く感じる。

誰が、どのように行うか

〔課題3〕 手立ての提案、効果測定

- 手立ては利用されているが、その手立ての満足感と、手立によってきちんと助かっているかどうかということも大事。
 - これでよいと思っているのか、さらによい手立てを求めているのかなど、先々につなげていくための検討がさらに必要ではないか。
 - 日々の生活や支援の中でフィードバックがなく、はたして本当にこれでよいのか全く見えないという暗中模索の状態というのものもあると思う。
- ◆ 実際に手立てを使っている方たちへの効果や手応えなどの検証が必要。
- ◆ 専門機関が本人・家族・支援者へ、どのように（手立てを）提示するか。

誰が、どのように行うか

〔課題4〕 日常のサポート体制 ①

《重点検討課題》

(本人)

- ・ 自由記載の中に「カレンダーなどにメモしたこと自体を忘れてしまう」というコメントがあるが、これは本当に当事者の方からよく聞く。
- ・ 「そうすればよいというのはわかるが、できないからADHDなんだ」というご意見もあり、専門家と当事者との間のミスマッチのようなところは、十分検討が必要。
- ・ 発達障害の示す様相が様々で個別性が高いことや、成長・発達という個人の変化、進学・就職など所属の場の変化という時間経過や環境変化の中でその様相が変化するため、手立ても常に見直す必要がある。

〔課題4〕 日常のサポート体制 ①

《重点検討課題》

(本人 続き)

- ◆ 手立てを講じるときに、特性や強み、課題にうまくフィットするよう、バックアップや導入の仕方の助言やサポートが必要。
- ◆ 手立てのアップーデートが必要になったときに直ちに対応できるよう、専門機関はもとより、その人の日常生活を支える層を手厚くする。

誰が、どのように行うか

〔課題4〕 日常のサポート体制 ②

《重点検討課題》

(家族)

- 家族が億劫であるとか、効果がわからないというのは、なるほどと感じた。
- 家族は24時間、常に本人と一緒にいて休みなしというところもきつくて、相談相手や、褒めたり指導してくれる人が近くにいないと本当に難しい。
- 見よう見まねで手立てを講じても、すぐに効果として見えてこないもので、何度も心が折れそうになった。
- 幸いなことに専門家の方に家庭での取り組みを支えてもらい、問題が起きると直ぐにアドバイスをもらえた。子どものゆっくりした成長も、親の頑張りも評価していただき、とても心強かった。

〔課題4〕 日常のサポート体制 ②

《重点検討課題》

(家族 続き)

- ◆ 24時間一緒に生活する中での手立ての選定（何を選ぶのか）、優先性（どこから導入したらよいのか）、正確性（これで本当にうまくいっているのか）を指示してもらえ、外部からのサポートが必要。
- ◆ 病院や専門機関だけでなく、日常を過ごす事業所、学校、保育施設などで関わってくれる先生方に、直ぐにアドバイスを受けることができれば、家族も安心して家庭での支援に取り組める。

誰が、どのように行うか

〔課題4〕 日常のサポート体制 ③

《重点検討課題》

(支援者)

- 福祉サービスの支援者は70%以上が難しさを感じていた。
- 事業所はいろいろな方がいて、お互いに刺激し合う環境もある。人という要素が絡み合っているため、事業所として、こういった手立てをどのように活かしていけばよいのかというところに難しさを感じているのではないか。
- 基本的な知識というのは必要だと思うが、それにとらわれすぎずに、一人ひとりに寄り添って、よく話を聞くということの大事さを感じる。
- ただツールを家族や当事者に渡せばよいわけではない。本人に合うようオーダーメイドしないといけないし、色々なことをきめ細かく行うためには、事業所が専門性を持って取り組まなければならない。

〔課題4〕 日常のサポート体制 ③

《重点検討課題》

(支援者 続き)

- ◆ 一人ひとり異なる困難さや必要性に応じて「手立て」を導入することが大切。
- ◆ 事業所が専門性を高めるために、専門機関や専門家が活躍して（事業所を支え）、しっかり「手立て」の定着を図っていかないといけないし、そのための仕組みが必要。

誰が、どのように行うか

〔課題5〕 使いやすいツールの開発や選択

- 本人も家族も「億劫」という回答が多いことに（専門職として）申し訳なく思う。
- カレンダーなどにメモしたこと自体を忘れるという意見もあったので、確かに手帳とかアナログな機器とかもよいが、テクノロジーを活用すれば、手立てについてはもう少し改善の余地があると感じた。
- ◆ 本人や家族にとって億劫になっているという点について、どのような背景や状況があるのか詳しく調査する必要がある。
- ◆ 本人や家族が使いやすいもの（ツール）を開発しなければならないと思う。

誰が、どのように行うか

〔課題6〕 専門的手法の普及 ①

- P E C S の会社を以前やっていたが、地元で思いのほか広まっていないことに非常にショックを受けている。
 - 専門的手法がわからないという声が、本人や家族だけでなく事業所にも多い。
 - 事業所等に対しても、専門的な支援をもっと広める活動をしなくてはならない。
 - 手立てを難しく感じる比率が（回答者の中で）事業所が一番高いということも、専門的手法が事業所に広がっていないことを反映しているのではないか。
- ◆ 専門機関が事業所に対し、責任を持って専門的な手法を伝えていく必要がある。
- ◆ （事業所の）底上げのため、専門的な支援について、これから北九州市で何か取り組まないといけない。
誰が、どのように行うか

〔課題6〕 専門的手法の普及 ②

- 専門的手法のことを知らないから「使っていない」と答えたということもあると思う。
- ご本人は年齢の高い方が回答しているので、就労支援事業所などでの支援を反映して、SSTと回答している方が多いのではないかと思う。
- 構造化が意外と使われていない。発達障害、特に強度行動障害のように重度の方には構造化はとても有効だと思うが、日常生活の中で（構造化を）あまり意識されておらず、どちらかというスケジュールを（使っていると）挙げた方が多かったなので、その違いが出たのかなと思う。

〔課題6〕 専門的手法の普及 ②

- 構造化という言葉は使っていないなくても、既に各学校で取り組まれているということはあると思う。
- 専門的手法の結果で、応用行動分析学の回答が少ない。日常に馴染みのある形で（応用行動分析の用語に拘らず）実践が広まっていることを願いたい。
- ◆ 今、行っている取組が実は構造化の一つの取組であるということ認識していただくことが、これからこういった支援が必要な子供たちへの、よりきめ細かな支援に繋がっていくのではないかと思う。
- ◆ （応用行動分析について）わかりやすく、実践しやすく伝えることが必要。

誰が、どのように行うか



2 更に、取り組むべき課題がないか

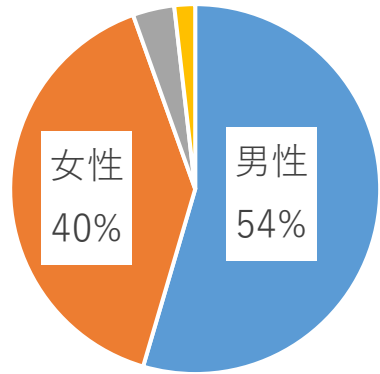
実態調査結果の振り返り

(本人、家族、福祉事業所)

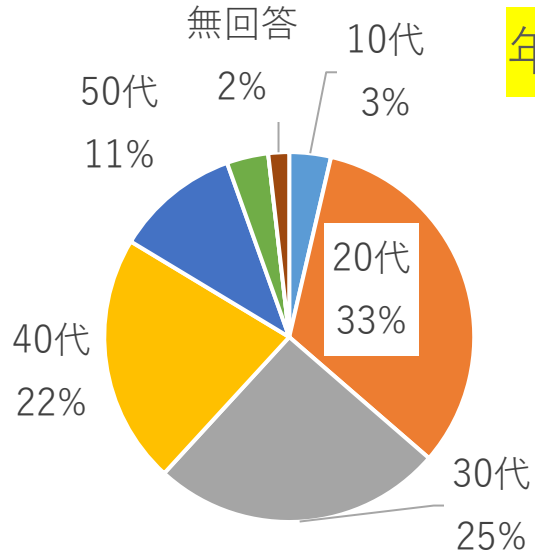
本人

(属性など)

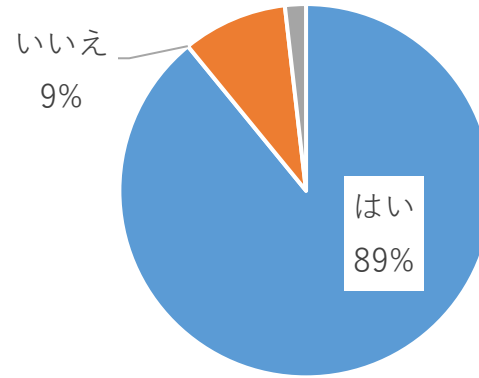
性別



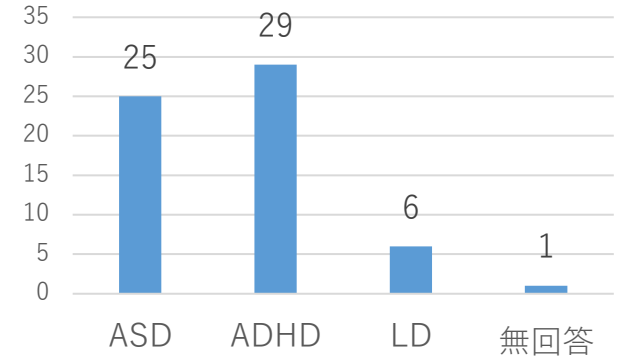
年齢



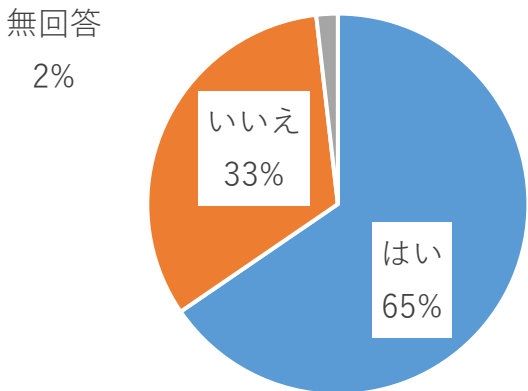
医療機関での診断



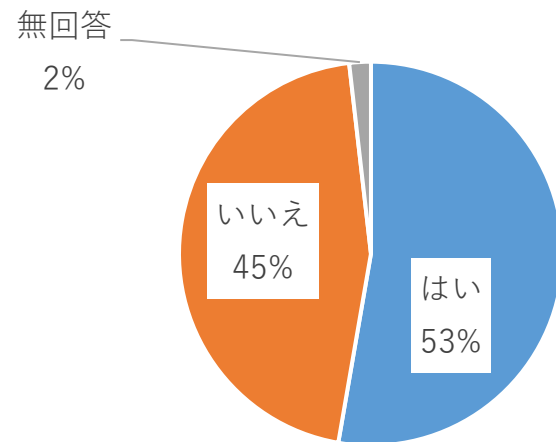
診断名



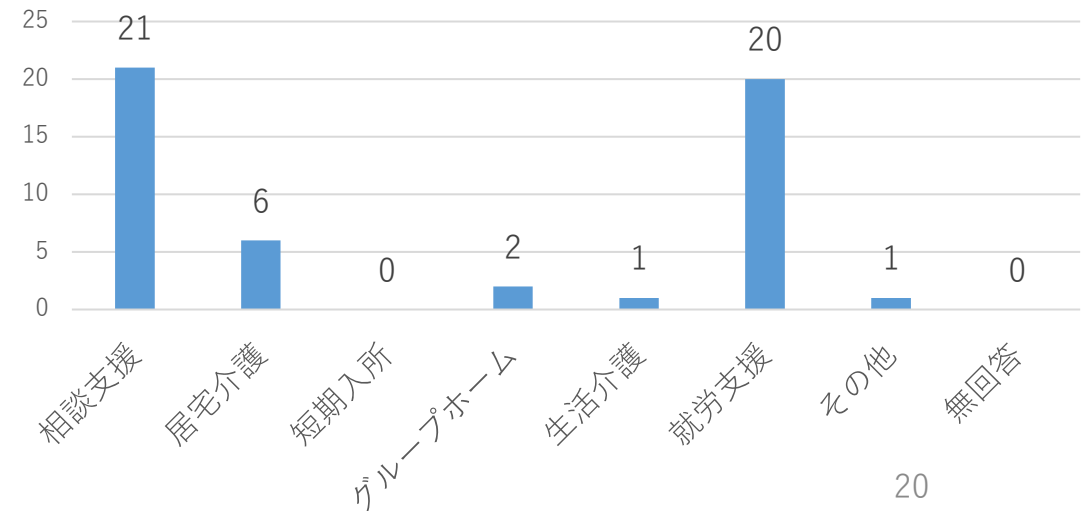
定期的に通院しているか



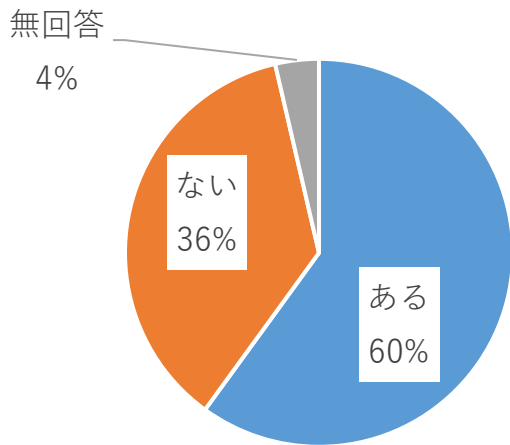
障害福祉サービスの利用



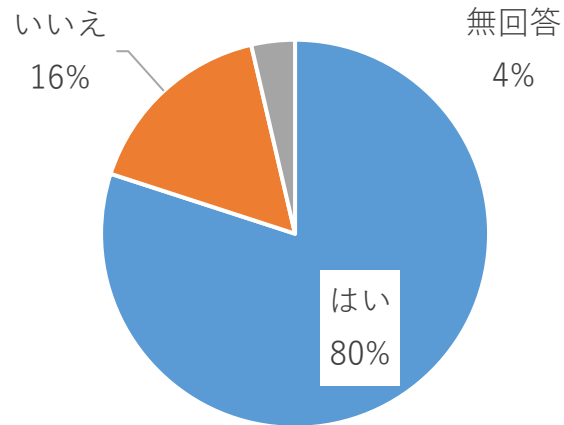
障害福祉サービスの種類



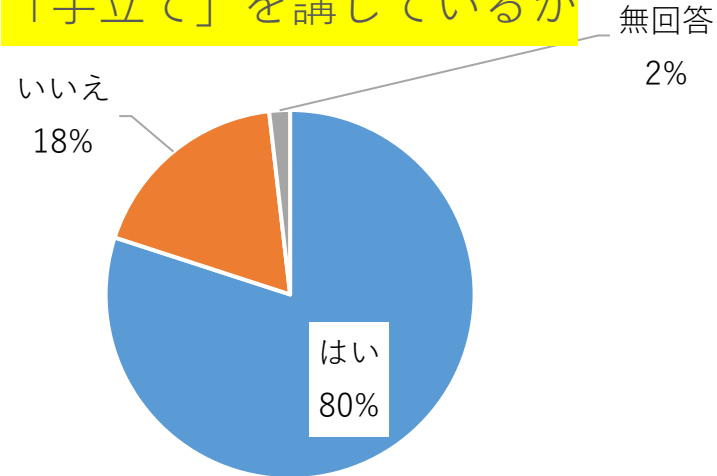
専門職による特性評価



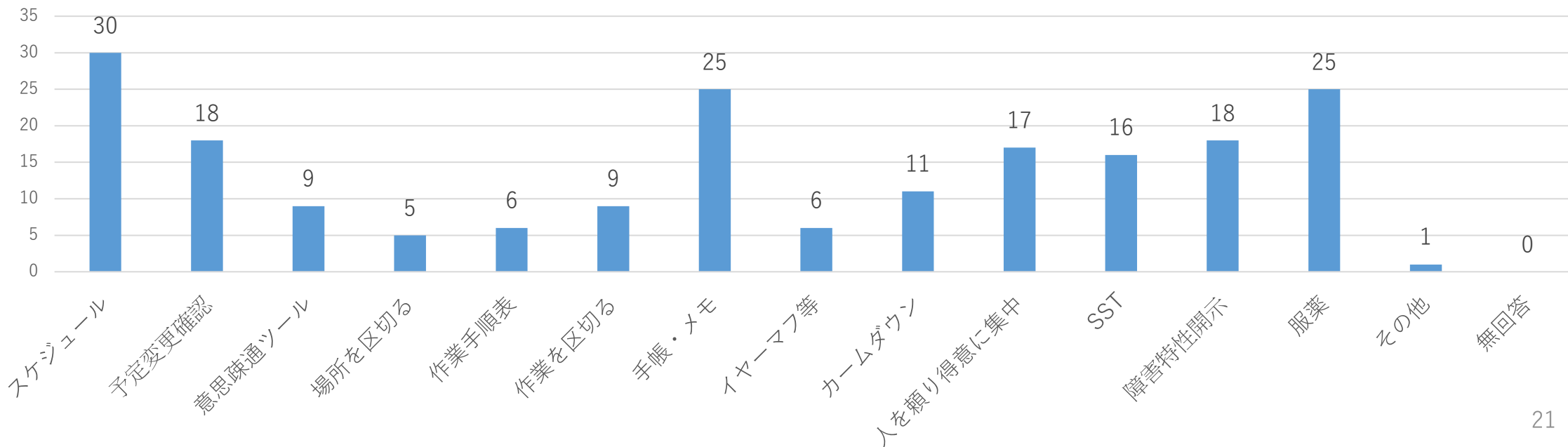
日常生活上の配慮が必要な特性の把握



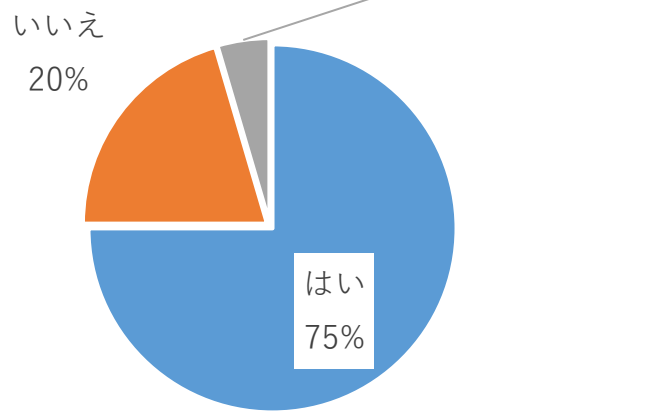
「手立て」を講じているか



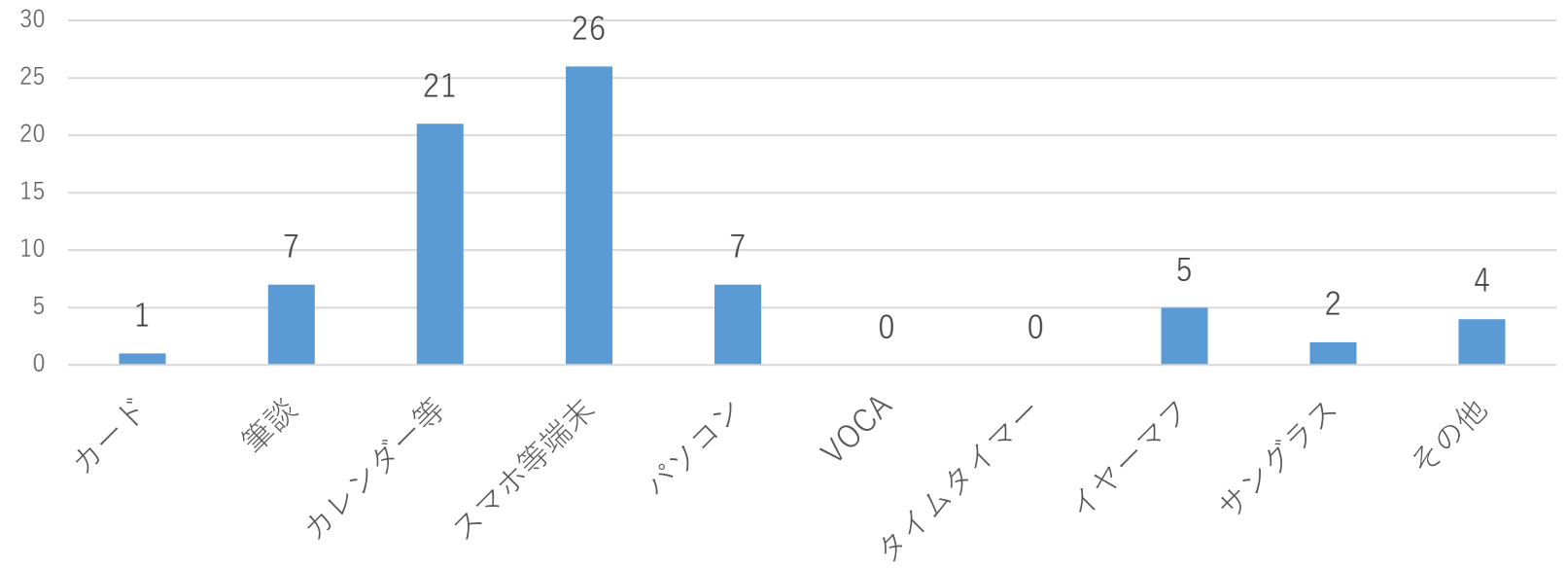
手立ての種類



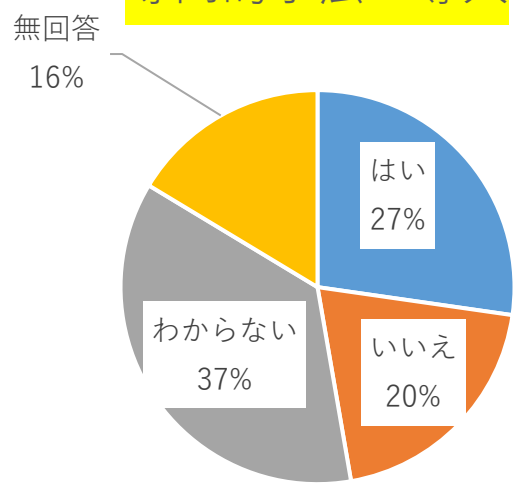
ツールを用いているか



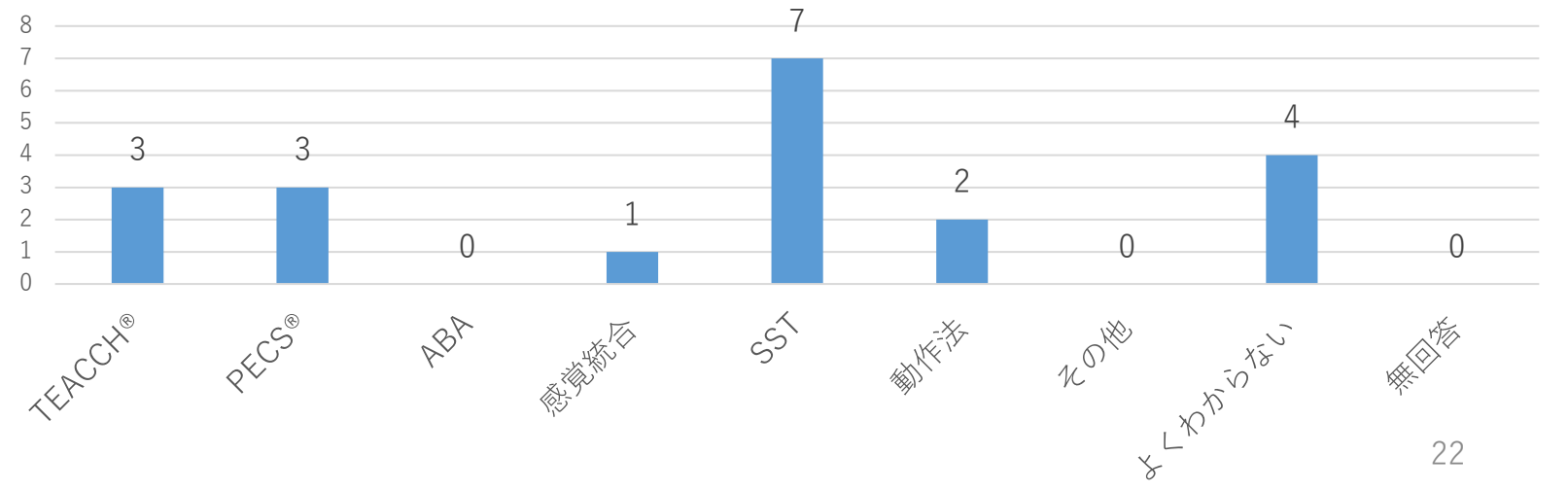
ツールの種類



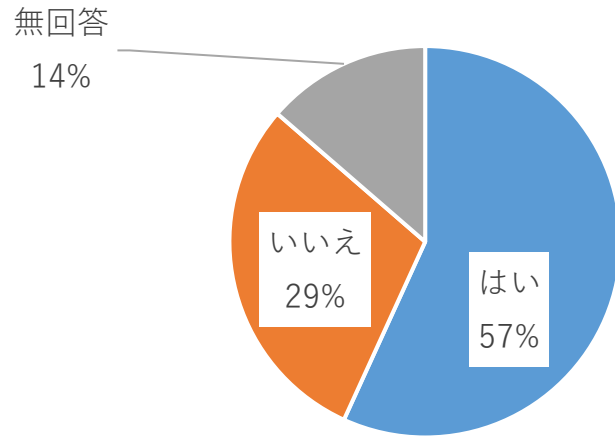
専門的手法の導入



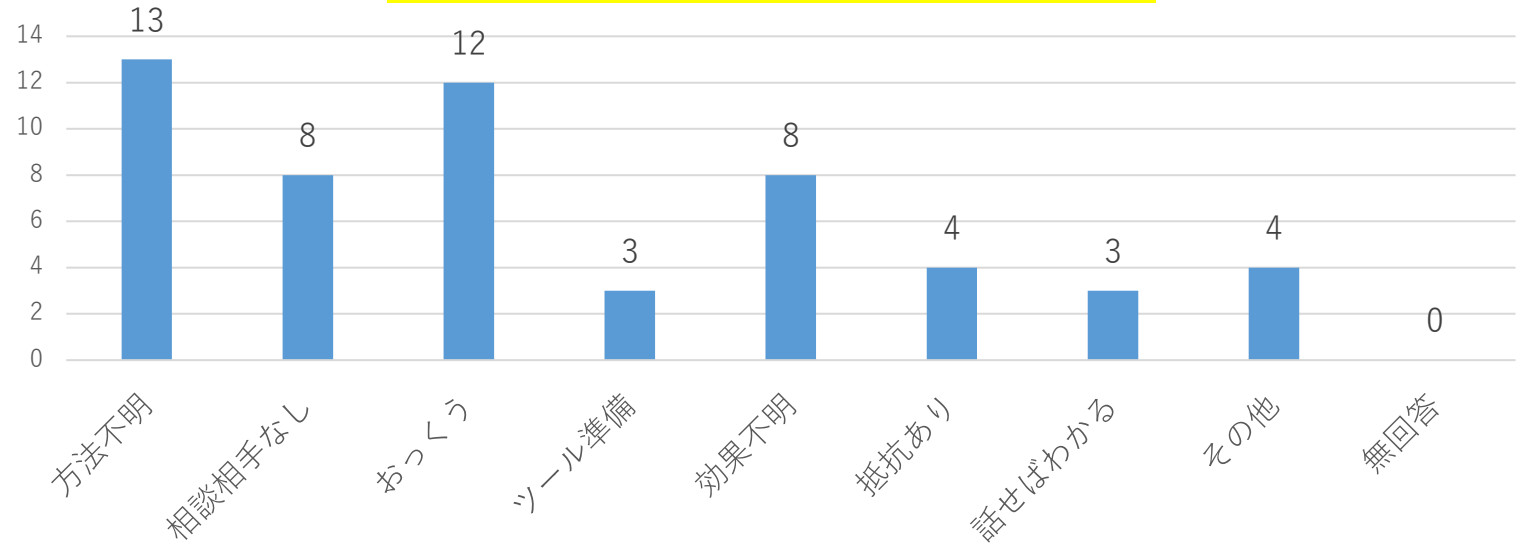
専門的手法の種類



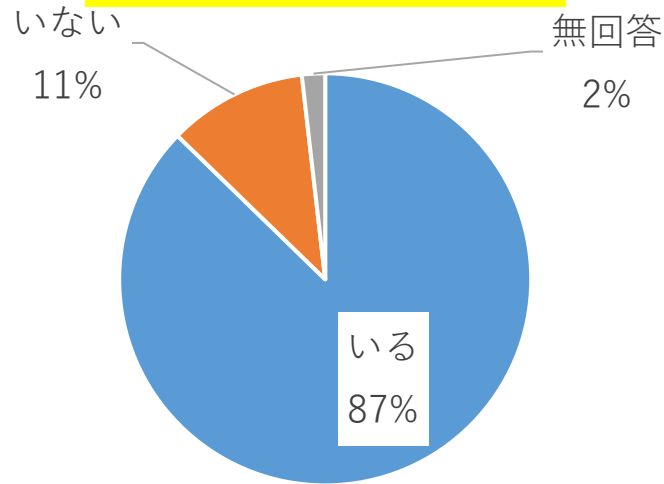
手立てを講じることに難しさを感じるか



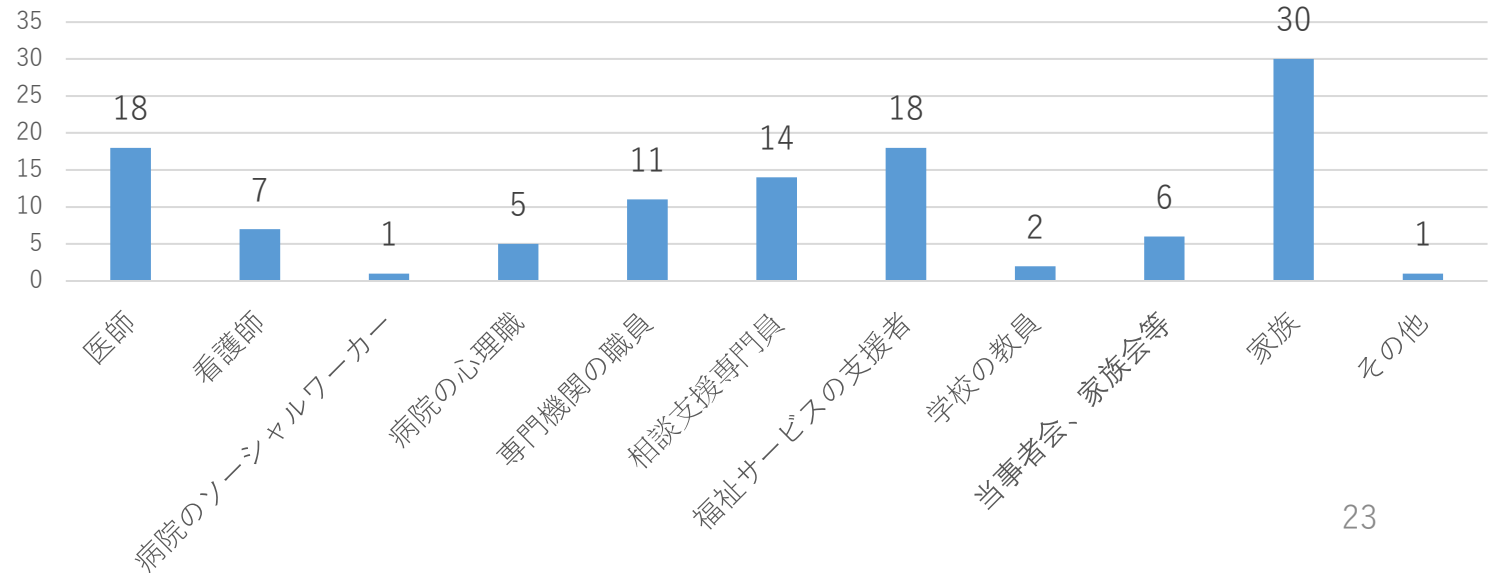
どのようなことに難しさを感じるか



困ったときの相談相手



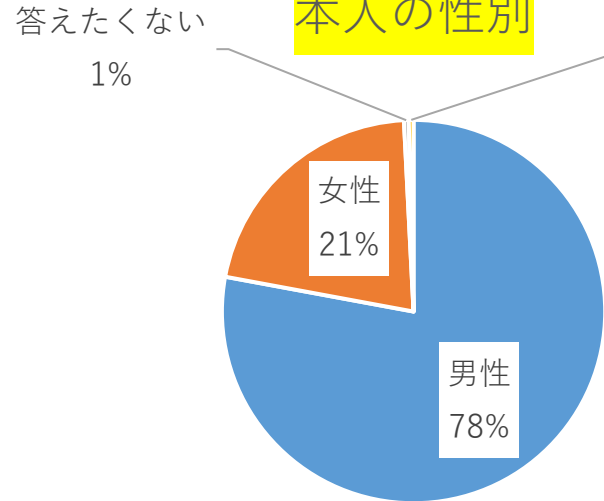
おもな相談相手



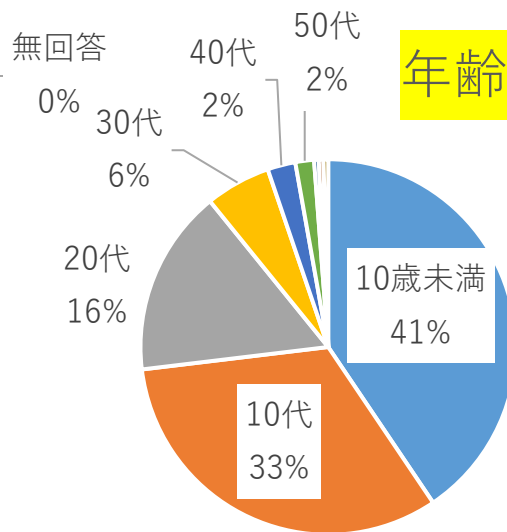
家族

(属性など)

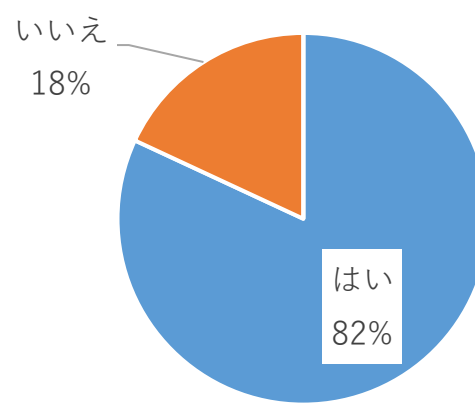
本人の性別



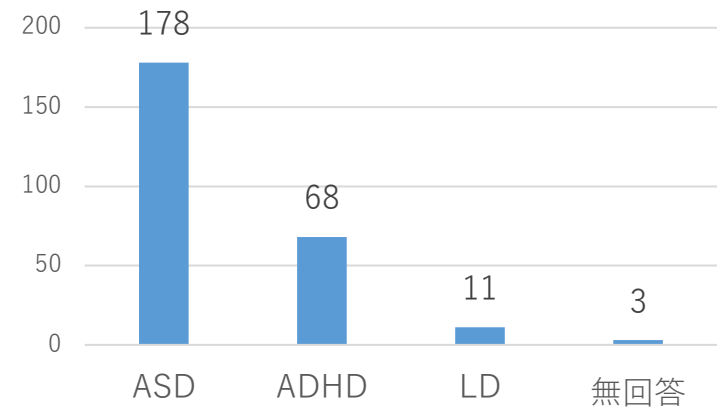
年齢



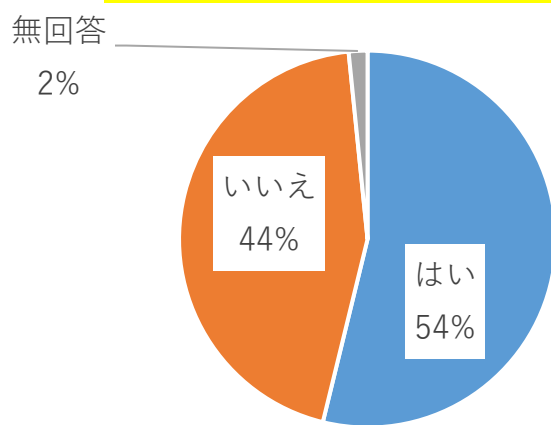
医療機関での診断



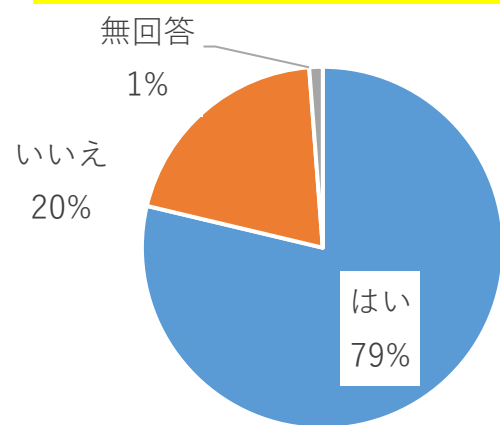
診断名



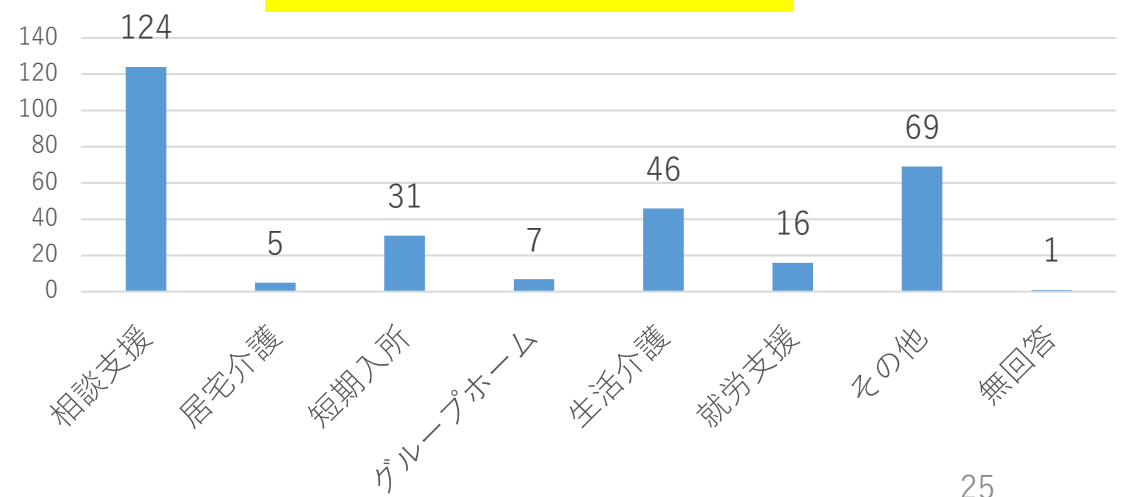
定期的に通院しているか



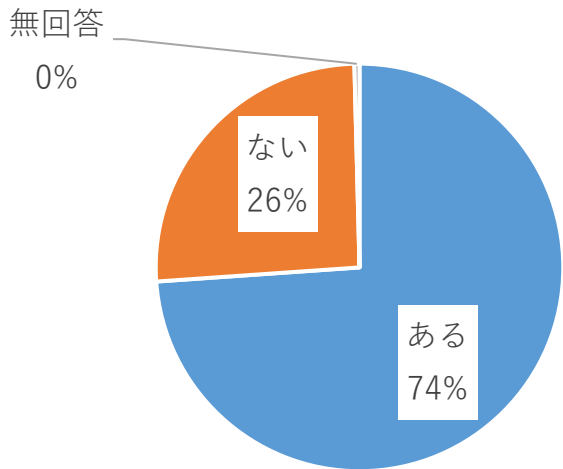
障害福祉サービスの利用



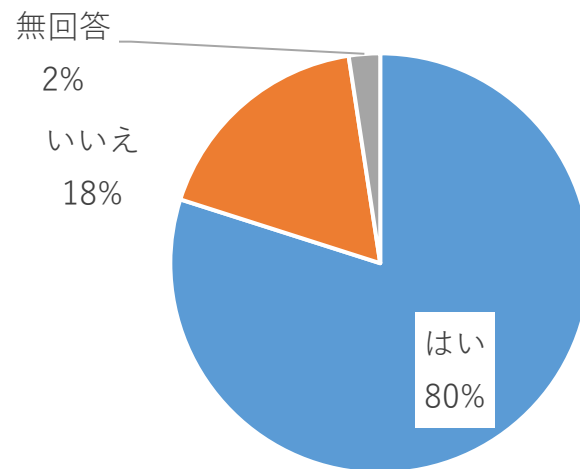
障害福祉サービスの種類



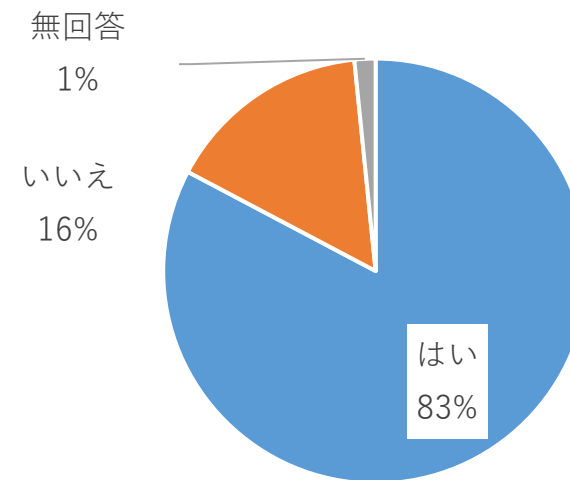
専門職による特性評価



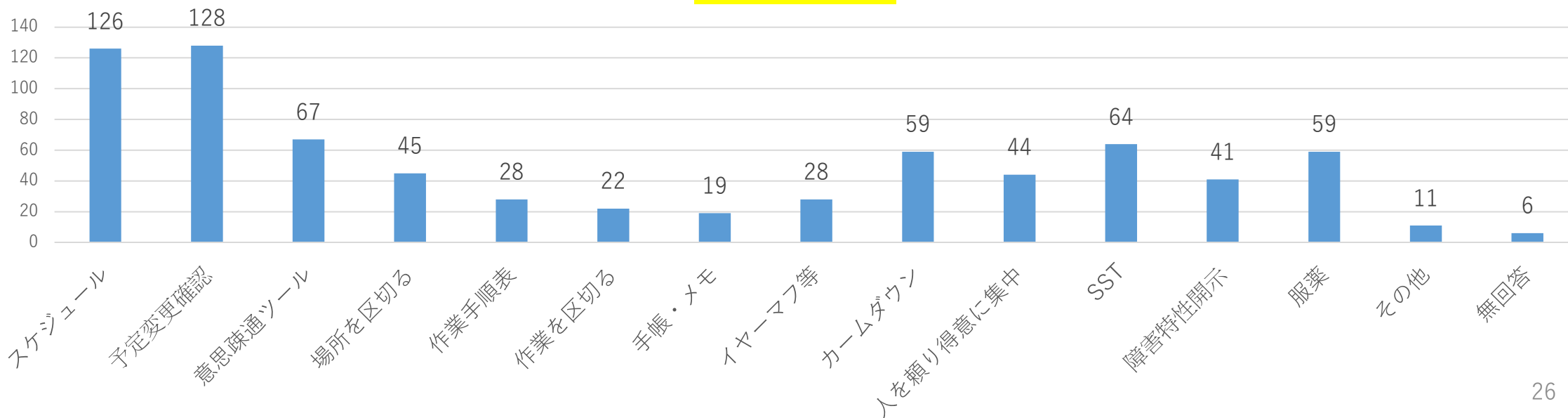
日常生活上の配慮が必要な特性の把握



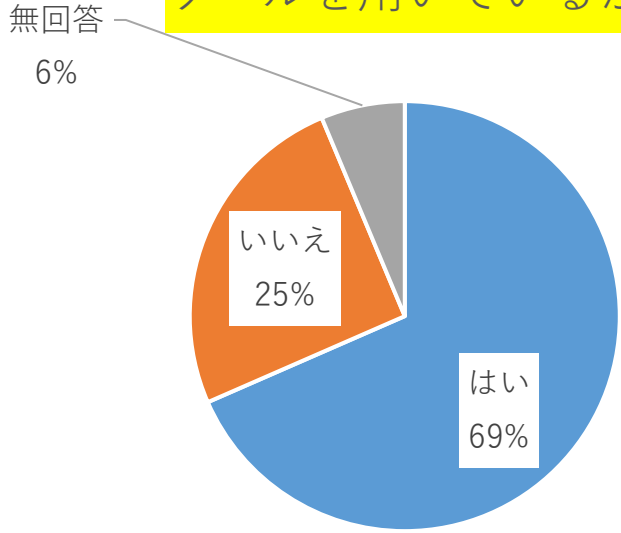
「手立て」を講じているか



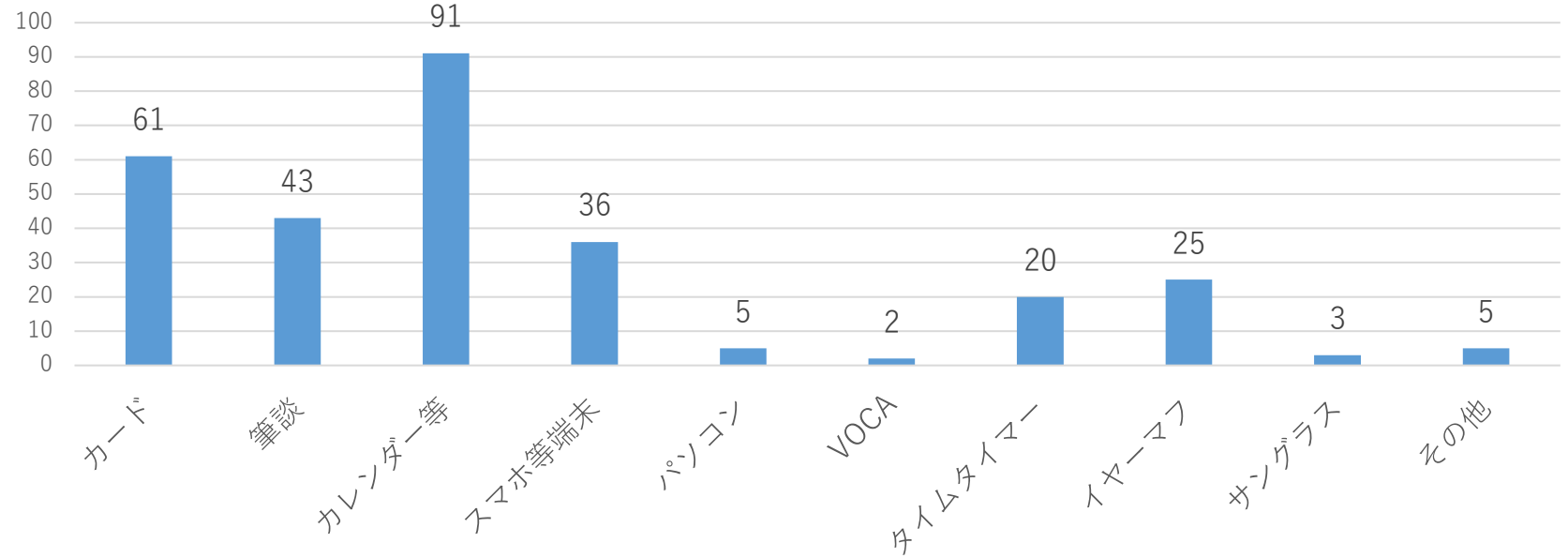
手立ての内容



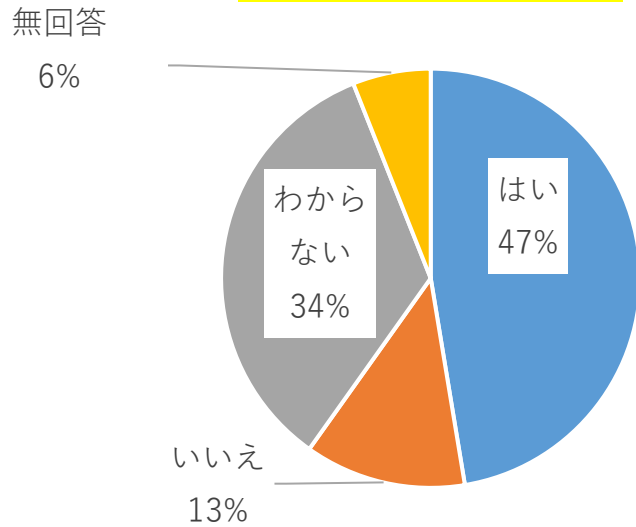
ツールを用いているか



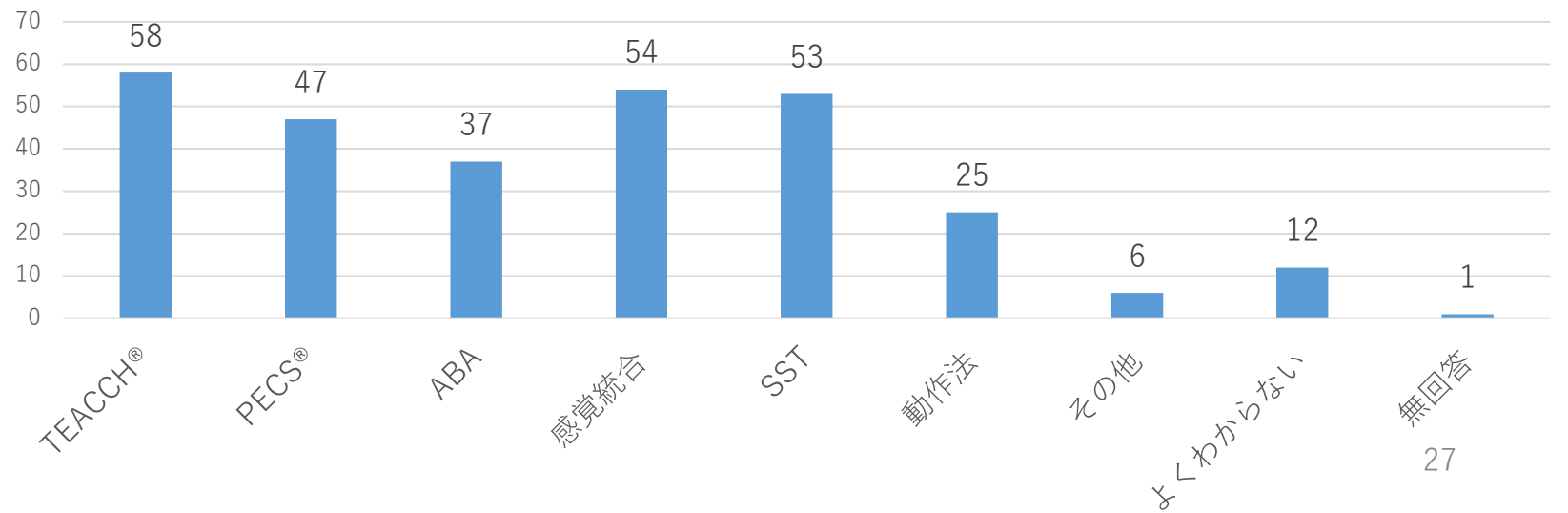
ツールの種類



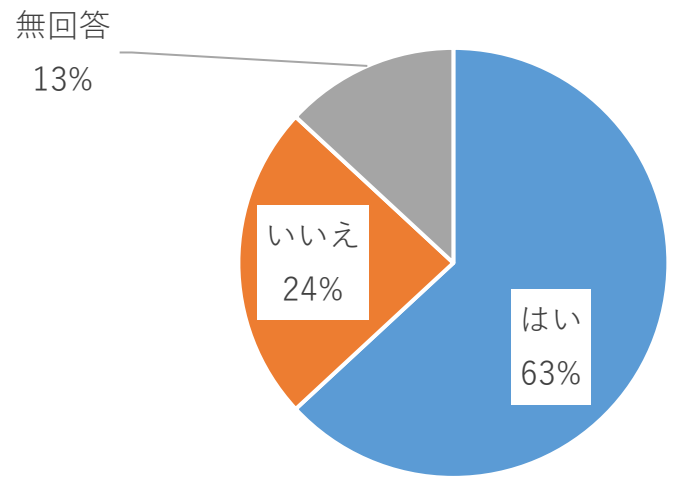
専門的手法の導入



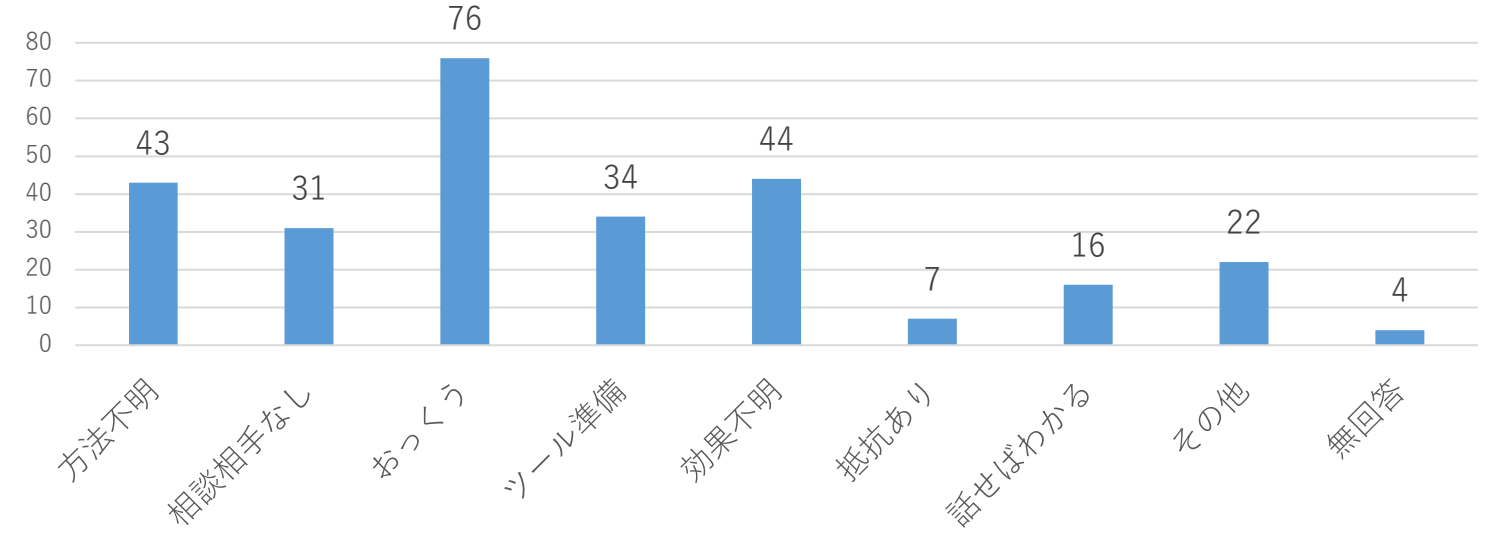
専門的手法の種類



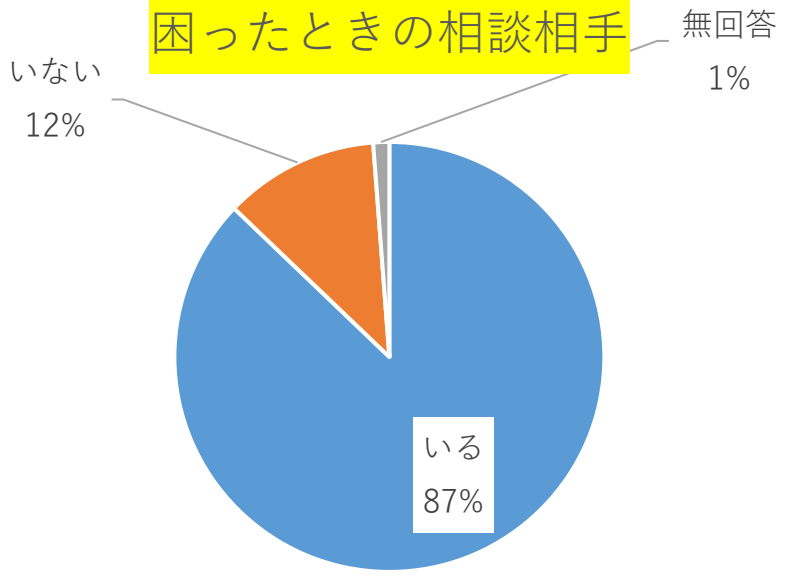
手立てを講じることに難しさを感じるか



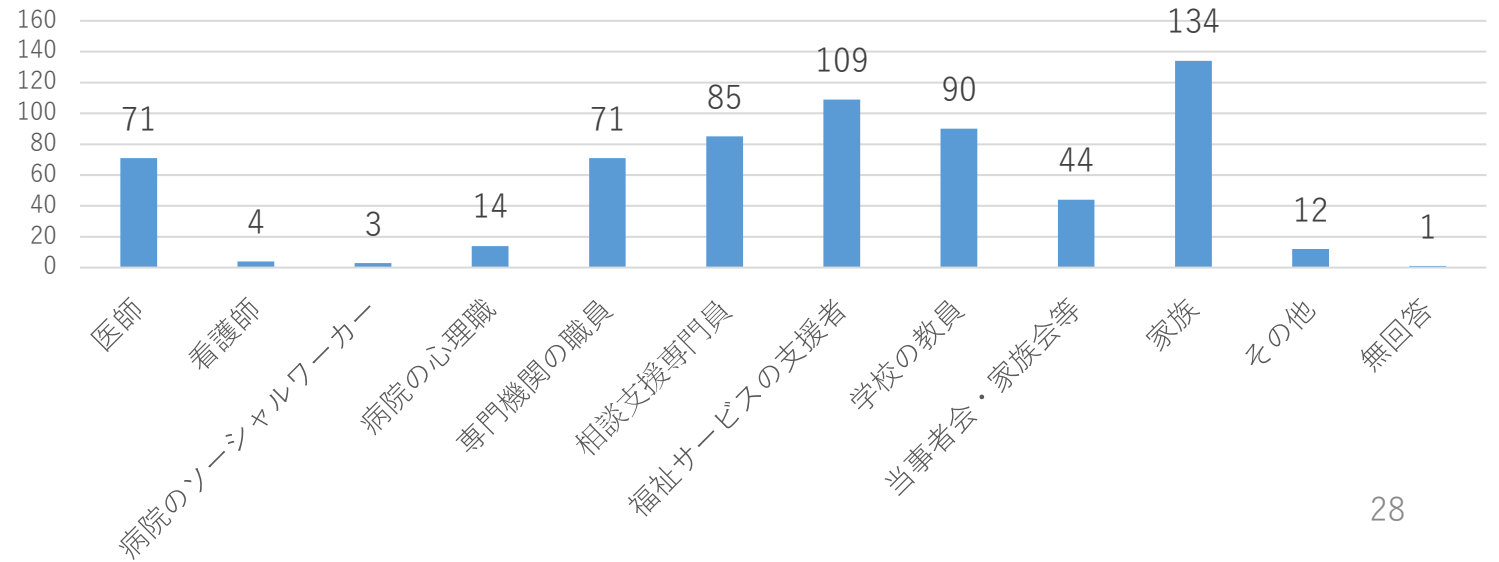
どのようなことに難しさを感じるか



困ったときの相談相手

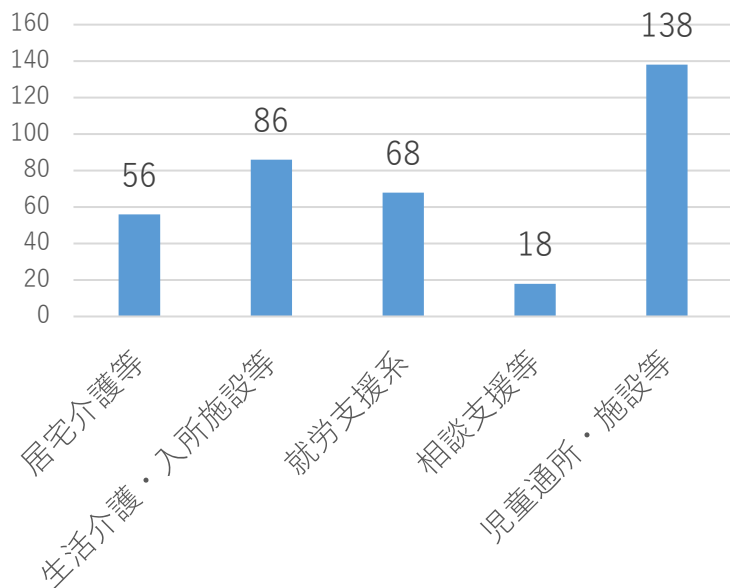


おもな相談相手

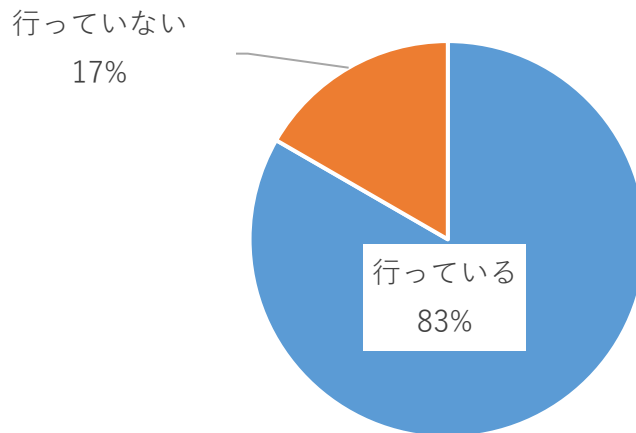


障害福祉サービス事業所

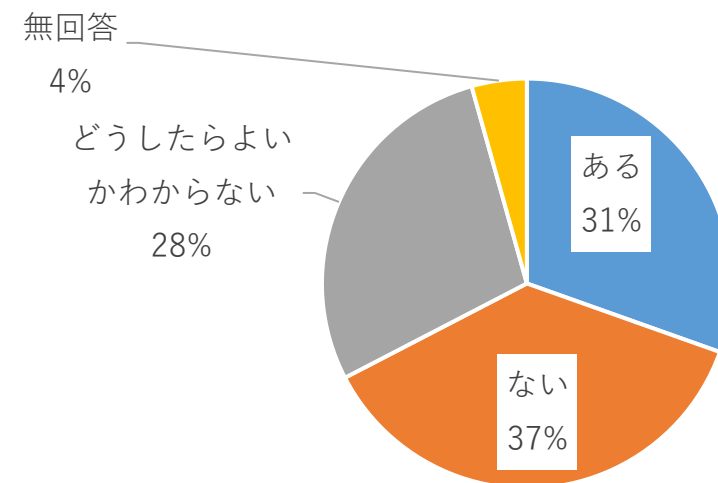
実施事業



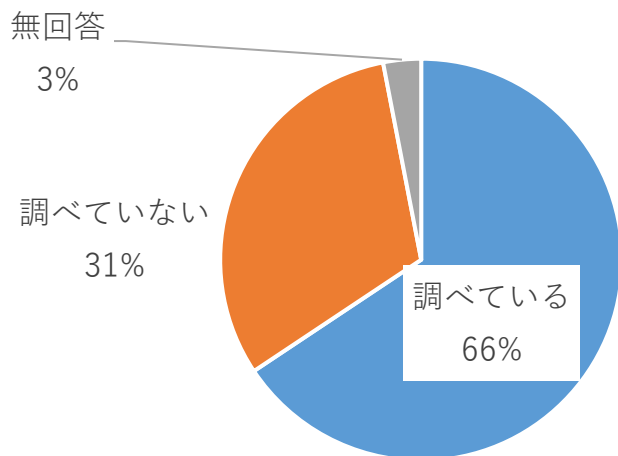
発達障害児者の支援を行っているか



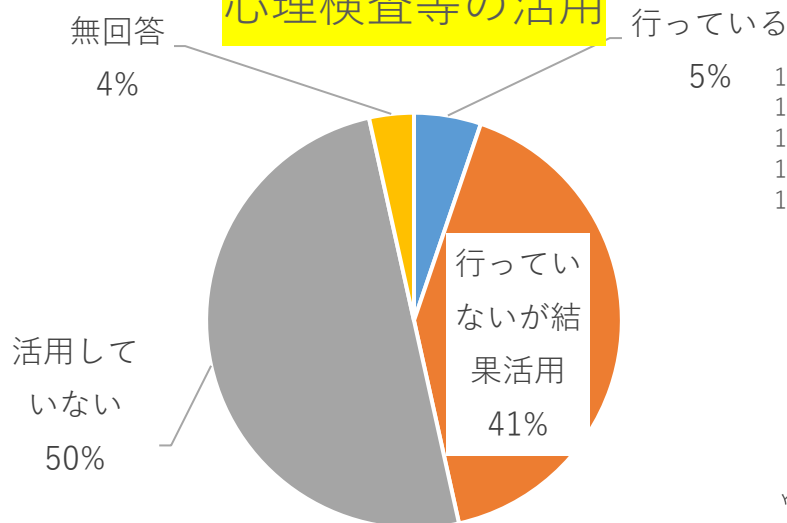
今後の予定（現在、行っていない）



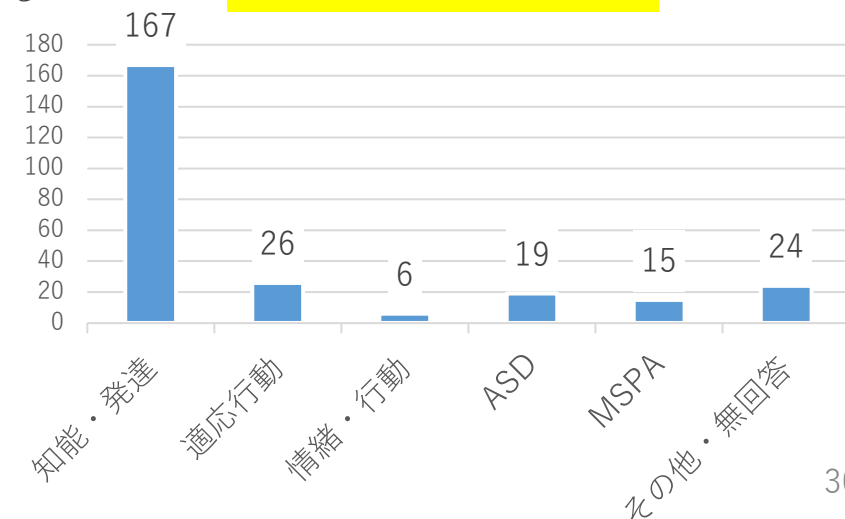
専門職による特性評価



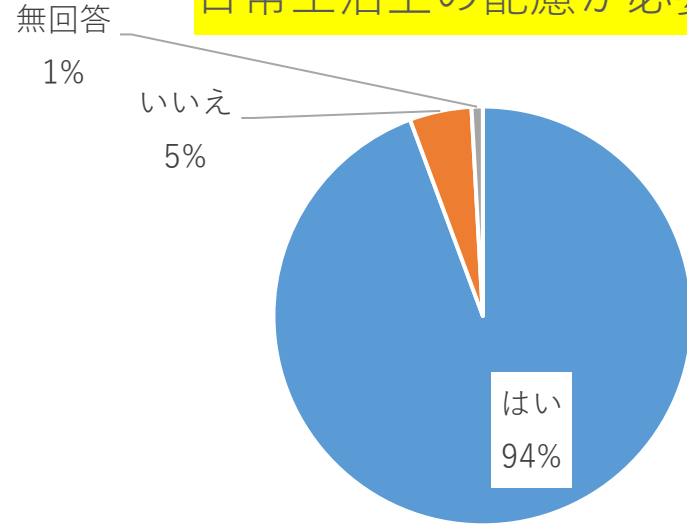
心理検査等の活用



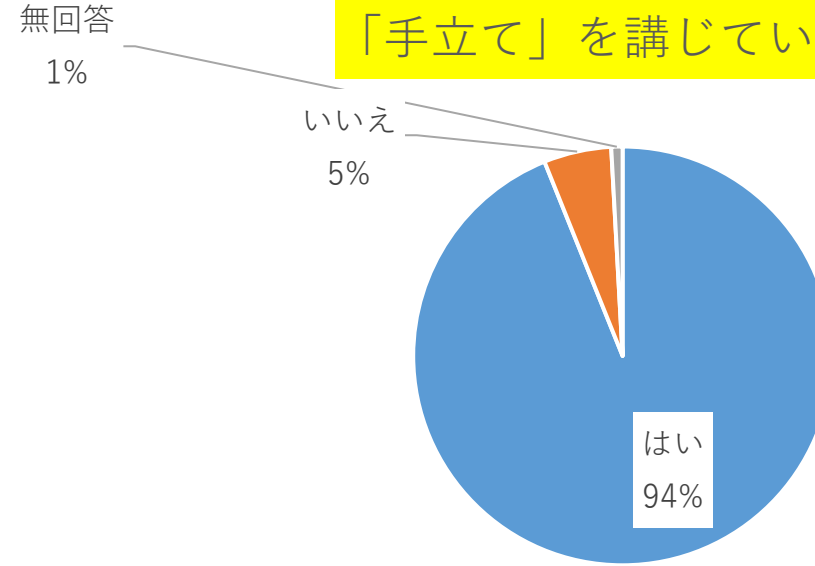
活用されている検査



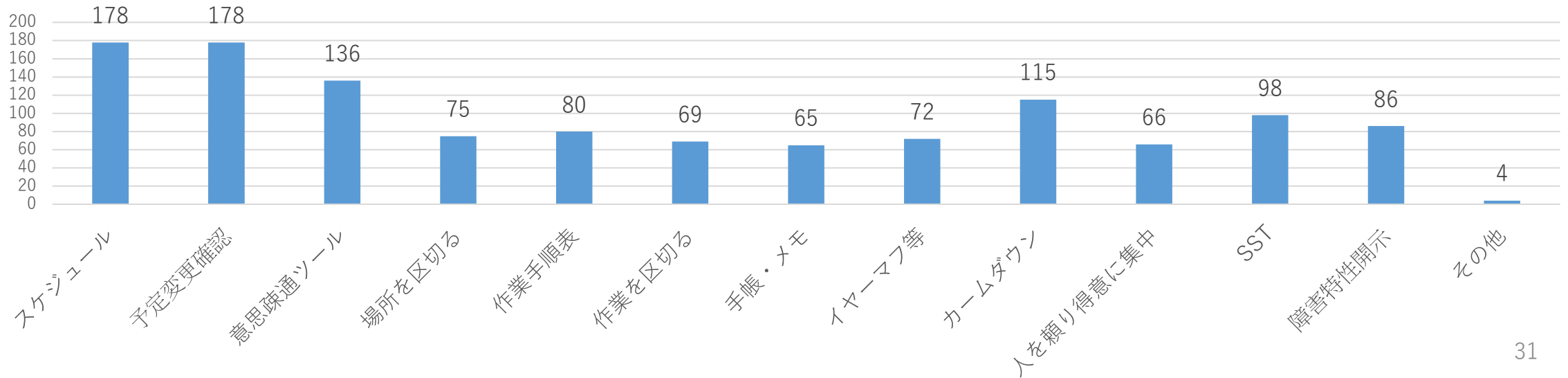
日常生活上の配慮が必要な特性の把握



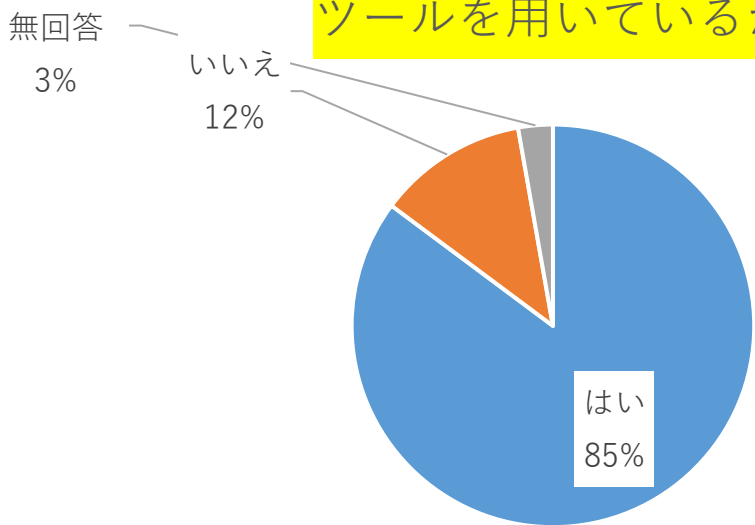
「手立て」を講じているか



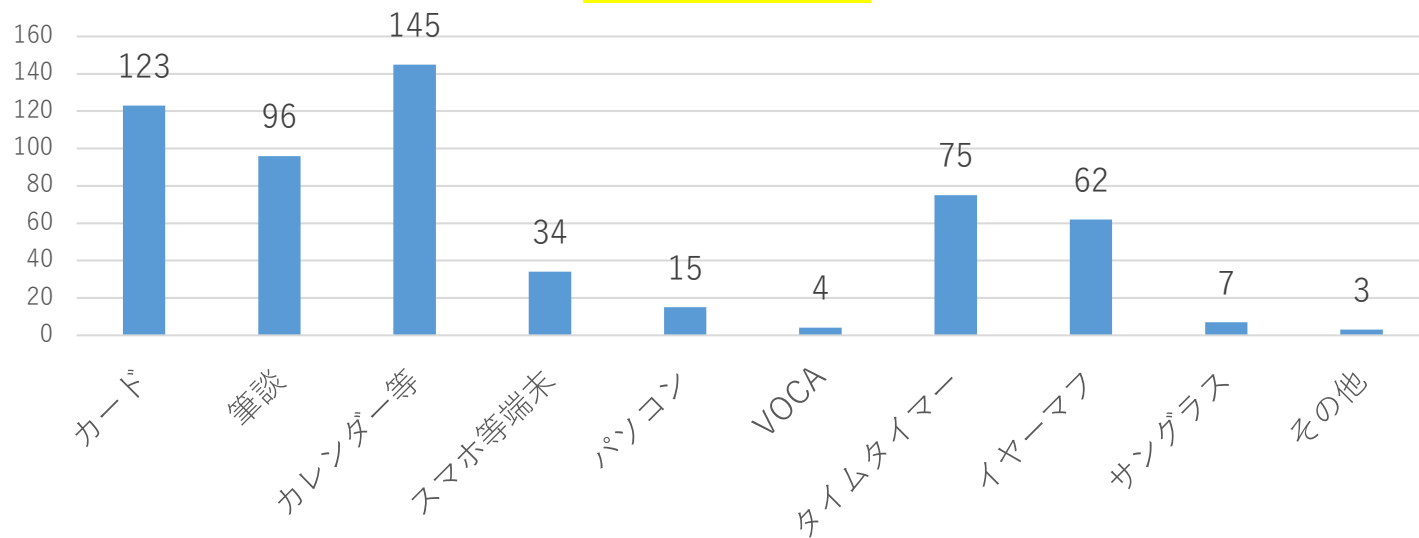
手立ての内容



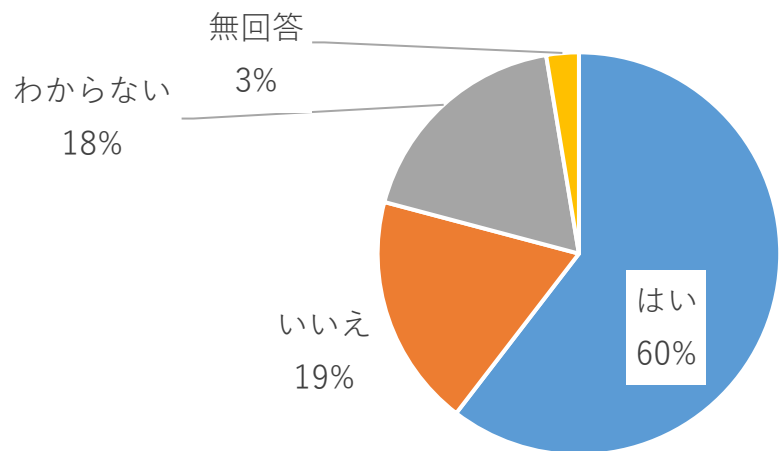
ツールを用いているか



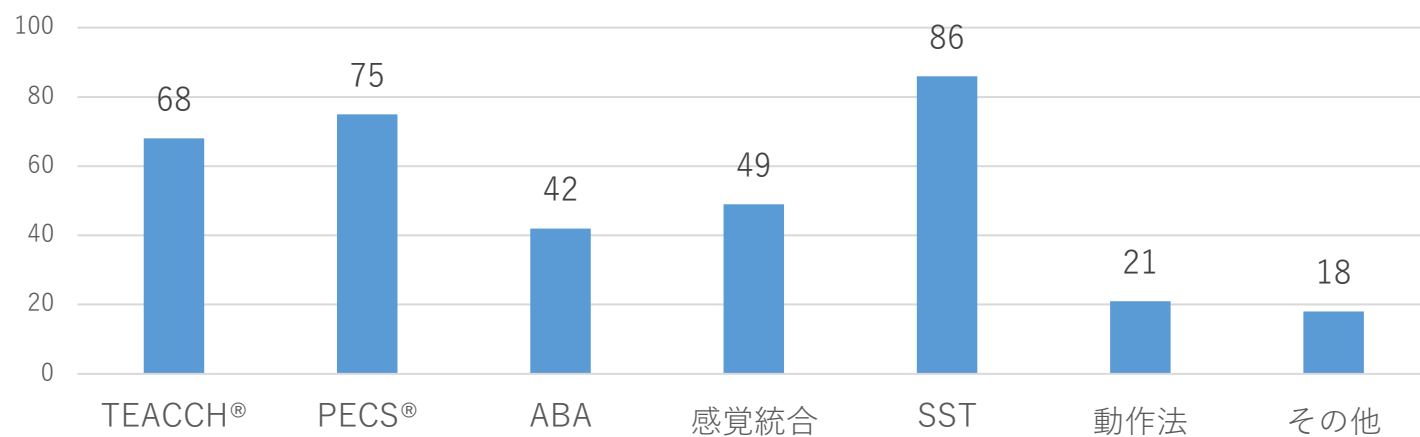
ツールの種類



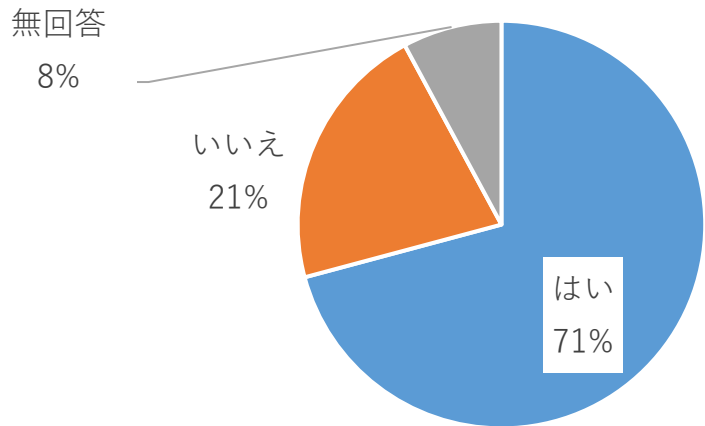
専門的手法の導入



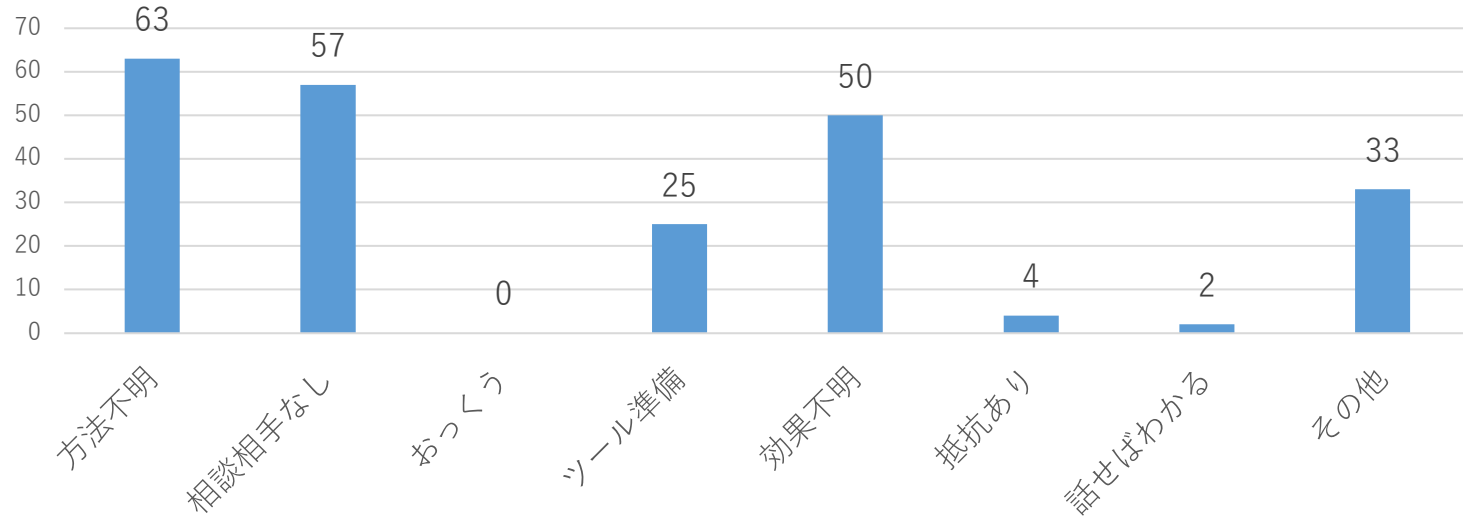
専門的手法の種類



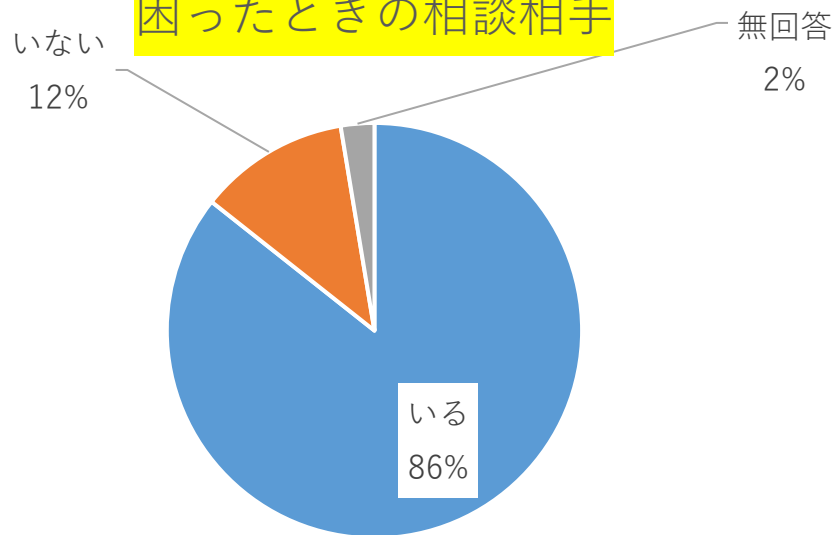
手立てを講じることに難しさを感じるか



どのようなことに難しさを感じるか



困ったときの相談相手



おもな相談相手

